



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 284 号 2011.3.5 発行 社会政策研究所

=====

千葉地裁で千葉県東金市の女儿殺害事件判決が言い渡されました。【kobi】

東金女儿殺害：裁判長が主文念押し...最後まで配慮

毎日新聞 2011年3月4日

裁判官の意味も「分からない」と述べた被告に、厳しい判断が下った。千葉地裁で4日言い渡された千葉県東金市の女儿殺害事件判決。軽度の知的障害がある勝木諒被告(24)は公判で拙い答えを繰り返し、弁護側は「裁判に耐えられない」と主張したが、退けられた。白昼の路上で遺体が発見された衝撃の日から約2年半。癒えぬ傷を抱えたまま遺族が法廷で見守った。

午前10時前、約100席の傍聴席が埋まった地裁201号法廷。勝木被告はこれまでの公判と同じ、ノーネクタイの黒いスーツ姿で、刑務官3人に囲まれて入廷した。栃木力裁判長に促されて証言台の前に立ち、主文を言い渡されても、うつむき加減のまま。栃木裁判長が「分かりましたか」と念押しすると、小さな声で「はい」とうなずいた。

「裁判手続きを理解しておらず、訴訟能力がない」と公判停止を求めた弁護側。判決が「黙秘権の意味を理解して自発的に供述している」などと退け、栃木裁判長が「分かった？ ちょっと難しかったかな」と呼びかけたときも、勝木被告は小さくうなずいた。計5回の公判は特に被告人質問で前例のない光景が続いた。弁護側は「黙秘権」「起訴」などの裁判用語をモニターに映し出し意味を質問。訴訟能力はあると主張した検察側も、質問を言い換えるなどの「配慮」を示し、被告の言葉を引き出そうとした。

それでも勝木被告は考え込んで沈黙を続けた揚げ句、質問とかみ合わない答えをしたり「分かりません」と言う場面が少なくなかった。一方で弁護人の説明を受け、証人尋問のやり取りなどは落ち着いて見守っていた。

弁護側は昨年末の初公判で、殺害の事実関係は認めた。当初は「冤罪(えんざい)」との見方を示していただけに、その変化に遺族は戸惑いを隠せなかった。公判では「障害を理由に刑を軽くすることは許されない」と強調。成田幸満(ゆきまる)ちゃん(当時5歳)の母多恵子さん(40)は「幸満もきっと判決を待っているのだと思います」とこの日を迎えていた。【中川聡子、駒木智一、味澤由妃】

知的障害者意思疎通へ「裁判官の教育必要」

東京新聞 2011年3月4日

軽い知的障害がある勝木諒被告に対し、千葉地裁の四日の判決は、訴訟能力や刑事責任能力を認め、懲役十五年を言い渡した。弁護団は当初の無罪主張方針を一転、起訴内容を認めた上で訴訟能力や責任能力を争う異例の展開をたどったが、専門家は知的障害者の裁判には改善すべき点が多いと指摘する。

勝木被告は、この日も初公判からずっと同じ白いシャツに黒いスーツ、サンダル姿で出廷。顔を覆っていた前髪などは切っていたが、あごひげは伸びていた。緊張した様子で前に出て、裁判長の判決を前を向いてじっと聞いた。

これまでの公判で勝木被告は、被害者の成田幸満ちゃんに「ただただ、ごめんなさいと言いたい」と述べたほか、「帰る。ばか」などと言われ、「暴走モードになった」とも話した。

弁護側が事件前の仕事内容や好きなアニメを聞くと、よどみなく詳細に答えた。だが「検察官や弁護士は何をする人」などと聞くと、「うーん」と黙り込んだ。千葉県警の調べには当初、「(幸満ちゃんが)部屋にいて腹が立った」などと供述していた。

判決は訴訟手続きや被告人質問での応答ぶりなどから、訴訟能力を認定したが、今回の公判をめぐっては専門家から懸念が出ていた。

知的障害に詳しい言語聴覚士の湯汲(ゆくみ)英史氏(58)は「知的障害者の言葉は、慣れない人には理解しにくく、聞く側の臆測や予断が入りがち」と指摘。日本発達障害福祉連盟(金子健会長)も二〇一〇年三月、知的障害について「話者の意図や誘導に沿った言動に陥りやすい傾向が強く認められる」として、供述以外に比重を置いた審理を千葉地裁に求めている。

千葉大大学院専門法務研究科の後藤弘子教授(刑事法)は「最終的に判断する側の裁判官にこそ、障害者を理解する教育が必要。少年事件に少年審判があるように、障害者を専門とする部署をつくることも一つの選択肢」と提案する。

改善の動きは始まったばかりだ。内閣府は今国会に提出する障害者基本法改正案に、捜査当局が障害の特性に応じて専門家の立ち会いなど必要な意思疎通の手段を確保し、関係職員に研修を受けさせることを求める規定を盛り込んでいる。

税・社会保障：消費増税分、早くもさや当て 与謝野氏発言に知事会反発

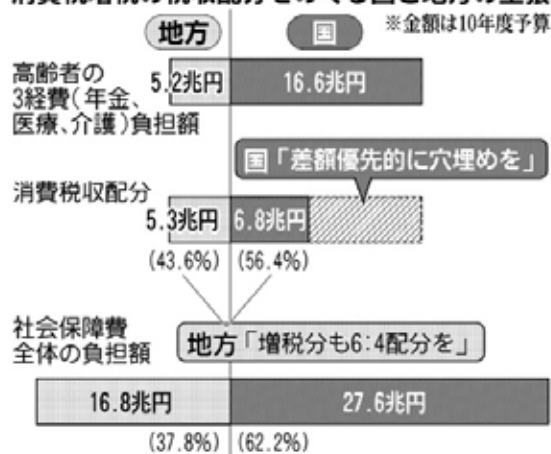
毎日新聞 2011年3月4日

政府が検討を進めている税と社会保障の一体改革を巡り、消費税を増税した場合の税収増加分の配分について、国と地方のさや当てが早くもはじまっている。増税分を地方に回すつもりがないことを示唆した与謝野馨経済財政担当相の発言に対し、全国知事会などが強く反発。現状は消費税収のうち約4割が地方に回っており、増税の際も、相当程度を地方に回すよう主張している。【久田宏】

国、高齢者3経費穴埋め/地方、「4割配分」維持して

「地方が参画した社会保障制度改革の議論をやるべきだ」。麻生渡全国知事会長(福岡県知事)

消費税増税の税収配分をめぐる国と地方の主張



岡田克也幹事長と仙谷由人代表代行を訪ね、税と社会保障改革の議論を主導する政府・与党の集中検討会議に、地方の代表者を加えるよう求めた。全国市長会も2日、同様の趣旨を政府に要請している。

こうした地方自治体の動きの発端になったのは、2月8日の与謝野氏の国会答弁だ。消費税率を引き上げる場合の地方への配分について問われ、「今のところ地方に(回す)という考え方は誰もおっしゃらない」と答えたため、地方から一斉に反発の声が上がった。

現行の国の予算総則では、高齢者向けの年金と医療、介護の3経費(高齢者3経費)に消費税を充てることになっているが、10年度で16・6兆円の経費に対し、消費税収は6・8兆円に過ぎず、約10兆円足りない勘定。一方で、地方は消費税の用途に縛りはないものの、3経費の負担額は5・2兆円に対し、税収は5・3兆円とほぼ同額だ。

菅直人首相は「10兆円の不足分は赤字国債で賄っている」と、国の借金が積み上がることに危機感を示しており、政府は消費増税分を10兆円の穴埋めに使うことを優先させ

たい考えだ。増税分をすべて穴埋めに使うとすると、4%程度の増税が必要で、「このうえ地方に回せば、非常に大きな増税になる」(財務省幹部)と懸念する。

一方、知事会は、地方の負担が大きい保育所の整備など子育てや、障害者福祉も対象に入れた「広義の社会保障」を前提に考えるべきだと主張する。

知事会によると、3経費だけでなく社会保障費全体で見れば、国の負担額27・6兆円に対し、地方は16・8兆円。現行の消費税の地方への配分割合とほぼ等しい4割を負担しており、増税分についても4割程度を地方に回すべきだと訴えている。

ただ、地方の主張に対しては、政府側から「配分の議論ばかりが先行していて、社会保障制度はこうあるべきだという情報は伝わってこない」(片山善博総務相)との不満の声も上がる。枝野幸男官房長官は3日の会見で「ある段階では、(地方に)議論に参加していただくことは想定している」と配慮をみせたが、国、地方とも財政状況が厳しい中で、税収の争奪戦に発展することも予想される。

ことば

消費税の地方配分

地方分権推進や地方財源充実のため、97年に消費税率を3%から5%に引き上げた際、税率換算で1%分を地方消費税として、地方の財源と位置付けた。残り4%のうち1・18%分が地方交付税として国から都道府県に分配されているので、消費税収の43・6%は地方に配分されている計算となる。

毎月配る5歳児向け教材シート、1年集め1冊完成

朝日新聞 2011年3月4日

1年を通して毎月1回配られるシート。ファイルに収めて1冊の「ふくしえほん」として活用できる

東京都狛江市社会福祉協議会が市内の幼稚園・保育園の5歳児に配っている福祉教材「ふくしえほん あいとぴあ」が好評だ。車いす、リサイクル、手話、お手伝い……。日常の身近な素材をテーマに、毎月家庭に届けるシートを1年間集めると1冊の絵本が完成する仕組み。思いやりや助け合いの心を育む格好な教材として活用が広がっている。



絵本の発行が始まったのは1993年。協議会内に小学校の教員や幼稚園長、保育士ら6人による編集委員会(現・活用委員会)を設け、数年ご

とに内容を見直してきた。今年度は、市内8保育園と4幼稚園の12園に通う5歳児計約550人に配った。

絵本のシートはA4判で12枚。車いすで保育園に通う5歳の男の子と、その友達の女の子を主人公に、保育園に入る4月の「ともだちいっぱい」から小学校入学を控えた翌年3月の「もうすぐいちねんせい」まで1年間の出来事を物語としてまとめている。

それぞれのシートには個別のテーマを設定。6月は手話を題材にした「いろいろなことば」で、よく使う言葉の手話もイラストで載せた。9月はリサイクルの大切さを伝える「またつかえるよ」。10月には横断歩道や電車内などで障害者やお年寄りに手を差し伸べる「やさしいまち たすけあい」を取り上げた。

各園が自由な発想で絵本の活用方法を工夫している。例えば、「手話」では、市内の手話ボランティアサークルを招いて指導を受けたり、「リサイクル」では、市ビン・缶リサイクルセンターに見学に行ったり。1月の「こんにちは せかいのともだち」では、市内の外国人留学生からその国の文化や食べ物、遊びを紹介してもらう園も。

私立子鹿幼稚園長の豊島秀臣さん（58）は「絵本が刺激になり、遊びながら生活を知る体験ができる」。協議会は「子どもたちが絵本を通して『福祉』を特別なものではなく、日常の中での助け合いだと考えるきっかけになる」と話している。（佐藤清孝）

【言いたい！聞きたい！自治制度】 読者から次々...大阪都構想、英断か独裁か

産経新聞 2011年3月4日



橋下徹・大阪府知事

地域政党「大阪維新の会」（維新）を率いる大阪府の橋下徹知事は、統一地方選で行われる府議選、大阪市議選、堺市議選で、それぞれ維新の過半数獲得を目指している。自ら掲げる「大阪都構想」の推進が狙いだが、構想をめぐる賛否両論が渦巻いている。構想を支持する人は、知事の決断を「英断」とたたえる一方、権力の集中を懸念する反対派からは「独裁」という批判も上がる。

大阪都構想は、大阪府と大阪、堺両市を再編し、広域行政を担う都と、公選区長のもとで中核市並みの権限を持ついくつかの特別区を形成。広域行政を都が、住民に身近な基礎自治を各区が担うとしているが、市の解体につながるなど根強い反対がある。

当欄では、読者の方々から寄せられた意見を紹介しながら、大阪都構想や都市の在り方、統一選などについて考えたい。まずは、これまでにいただいた意見の一部を紹介する。

橋下知事を支持する代表的な意見は、大阪府阪南市の男性（71）のように《本当によくやっている》という声。《今までの首長がダメな大阪にした。ない袖を振ってしまったから、こんな大阪に成り果てた。大阪を根底から立て直してほしい》と訴える。

大阪市平野区の男性も《区長を選挙で選ぶのは大賛成。区民は区長の顔をほとんど知らない。選挙で選べば責任ある行動をとってくれると思う》と期待する。

一方、《大阪都に具体性なし》と記した読者は、《区割り、収入や支出といった検討材料を選挙前に出してほしい》と指摘する。

構想に中身や具体性がないといった意見は少なくなく、橋下知事の支持派からも出ている。ある読者は《（知事の）行財政改革を評価する》としながら、《大阪市を解体するといっているその後が見えないから、大阪市が持っている資産を狙っているようにしか見えない》と評していた。

当の橋下知事は、構想について「これ以上できないほど説明している」と話す。確かに、さまざまな場面で持論を展開し続けているだけに、「説明不足」の指摘は心外なのだろう。

大阪都構想は、地方自治の在り方を変える英断なのか、それとも独裁の序章なのか。他府県在住の方も含め、幅広いご意見をお待ちしています。（地方自治取材班）

【一口メモ】「構想の発案者は誰？」

「大阪都構想」と言い出したのは、実は橋下知事ではない。太田房江前知事の時にも議論が浮上し、当時大阪市長だった磯村隆文氏の掲げる「スーパー政令市構想」と論争になった。橋下知事が「大阪都」について言及し始めた当初、ある府幹部は「府市がぶつかった昔の怨念もあって、都構想の名称にも大阪市役所は拒否感があるだろう」と話していた。知事も一時名称変更を検討し、大阪都をやめ「グレーター大阪」にしようとしたこともあったが、「分かりにくい」とすぐに撤回。もしそのままなら、都道府県名も「グレーター大阪」になったのだろうか...

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック

